

第61回四国中学校総合体育大会（四国中体連など主催）第6日は5日、4県で11競技が行われた。徳島県勢は新体操団体の羽ノ浦女子が3大会連続9度目の栄冠に輝き、生光学園は2位に入った。ソフトテニス団体女子決勝は県勢対決となり、市場が2大会ぶり4度目の頂点に立ち、阿南二が準優勝。軟式野球は板野が決勝に進み、卓球団体女子の城東と北島が決勝トーナメント1回戦を突破し4強入りした。

四国中学校
総合体育大会
第6日



生光学園2位全国へ

新体操

（鳴）アミノハリニューホールほか
【男子】団体の小松島（窪田磯、安藤、前川、橋本、三木）11・15点
小松島は28大会連続31度目の優勝。

【女子】団体の羽ノ浦（松田、岡田、鎌田、四宮、細川、河野）17・45点の生光学園（野田、貝原、幸島、森垣、吉成、竹田）17・05点
羽ノ浦は3大会連続9度目の優勝。

▽個人総合①一色彩葉（愛媛・道後）47・30点②木本（阿南）32・80点③岡田（石井）27・00点④喜田（志神）23・90点

基本徹底で躍進

○：ミスが相次いだ県総体から基本練習を徹底し、大幅に得点をアップさせた生光学園女子。全員がボールを投げ上げた後、背面でキャッチする

見せ場の大技がびたりと決まるなど、ほぼノーミスで演技を終えた。2位



田中将IIの3年野

符をつかみ、唯一の写真上IIは「たくさん練習してきた良かった」と喜んだ。

チームは4月から競技を始めた1年4人と野田主将で構成。県総体はボール交換などでミスが重なった。四国総体に向けて動き方やステップを見直し、1



島II同下得点を上げた。幸

IIは「野田先輩と一緒に全国に行けるか不安だったが、失敗を克服できてるうれしい。全国はノーミスで踊りたい」と話した。